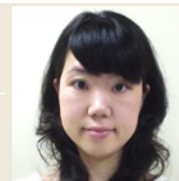


愛知県

名城大学附属高等学校

澤田麻衣先生



高1

▶ アクティブ・リーディング Basic

難しい単語も、音読を繰り返して本文と関連付けることで定着しました

『アクティブ・リーディング Basic』を採用した理由は、生徒が自分で音読の練習をしやすいためです。それまでは、音読への意識付けが授業だけでは徹底できず、また生徒は教科書の音声教材を持っていないので、授業で音読を促しても家庭での音読は難しいという現状がありました。

基本的にはテキストの指示に従って進めました。講習中に単語をクイックレスポンスで覚え、Pre-Reading、3-Phase Reading、発音確認とサイトトランスレーションまでやりましたが、生徒には少し難易度の高い文章だったため、英語→日本語の音読という感じです。日本語訳も一緒に音読させました。その後のOral Readingは宿題としましたが、サイト・トランスレーションは4回、タイムを計って記録する欄を設けたり、日本語→英語の音読もテキストの指示の倍の6回にするなど徹底できるように、指示をより細かくしました。

生徒にとっては負荷が大きかったようで「大変だ」という声もありましたが、これまでの構造分析の授業とは一味違った「体育会系」の授業は、力の付いた実感も強かったようで、必死で音読する生徒が増えました。今後も大学受験を突破するだけでなく、大人になっても「役に立った」と思えるよう、耳も口もフルに活用して英語を学習してほしいです。

① 採用した理由

家庭学習で音読の習慣をつけさせるのに適した教材であるため



① テスト実施方法

○頻度

週1回、希望者対象の講習で

○1回の範囲、問題数

本文の和訳、英訳、『アクティブ・リーディング Teacher's Manual』の問題を1day分、3~4問実施



2013年9月現在